

# SDGs HeadLine

～SDG s 達成への道～

燈台の光プロジェクト Be Leaders 新聞班

2020 年 11 月 17 日 (火) NO. 4

編集長 M2B 菅野柚希

記者 M2 藤原萌衣 平山かな M1 神足佳音

編集補佐 平尾一貴 この新聞は学校 HP にも掲載しています。



## 萩原先生に聞く SDG s 関連インタビュー第 4 弾 (2020 年 10 月 27 日昼休み取材)



### 海外で感じるジェンダー平等とは

3号でインタビューさせていただいた上杉先生から推薦されたのは萩原先生。海外旅行にも多く行かれていた萩原先生。その経験から感じた日本と海外でのジェンダー平等についての違いを聞きました。

取材：M2 B 平山かな・藤原萌衣

藤原：早速ですが、萩原先生は海外旅行にたくさん行かれていたと聞きまし

たが、日本と海外でジェンダー平等についてギャップを感じたことはありますか？

萩原先生：あります！私は一人旅が好きなんです。で、海外にもよく行くんですが、女性に対してどのように接するかは文化や宗教的な価値観によってそれぞれ違うなと感じますね。具体的にどんな事かというのを話していきますね。まずヨーロッパに関してなんですが、私が教師になる前に 1 カ月半くらいイギリスに英語の勉強に行っただ。世界中から英語を勉強する人が集まる語学学校で勉強していました。そこでイギリスはやはりジェントルマンの国だと感じました。イギリス人には強い男性が弱い女性を守るという考え方が強いんだと思うんです。女性に対して男性が手を差し伸べてくれたりとか、知らない人でも荷物が重そうだったら持ってあげたりとか、そういうことが当たり前でできるという国柄を感じました。それは「男女」のジェンダーだけでなくお年寄りとか子供に対しても配慮がすごく自然にできますね。日本人はやっぱり恥ずかしがったりとか、やった方がいいって分かっているけどやらなかったりしますが、ヨーロッパの人達って普通に当然のこととしてサポートするっていう習慣があると思います。それに対しては日本もそうになっていくべきだなと思います。

藤原：ヨーロッパの人達の習慣ってやっぱりすごいですね。体験されたと聞くと改めてそんなに違うんだと感じます。

萩原先生：次にニュージーランドですね。ニュージーランドは男女が平等・対等だと感じました。家事や子育てをよくやる夫（日本で言うイクメン）をニュージーランドではキウイハズバンドって言うそうです。キウイ（鳥）はメス

が卵を産みますが、卵を温めて孵化させるのはオスの仕事なんです。そこから「キウイハズバンド」と呼ばれるようになったんでしょうね。日本ではそれが賞賛されているけど、ニュージーランドでは当たり前のことなんだそうです。だから、平等と一言と言っても平等の中身が国によって違うということはあると思います。

藤原：鳥に例えるっておもしろいですね。日本ではオシドリ夫婦みたいなことでしょうか。他に何かありますか。



萩原先生：あとは男女平等と言った時にそれを実現するって結構難しそうだなって思ったことがあって。それはイギリスの語学学校の授業でのことなんですが、その時はイタリア人男女、スペイン人男女、ロシア人の男子、韓国の女子 3 人組、イスラム系の男の子達と私でディスカッションをしたんです。テーマは「女性性は外で働くべきか」。イスラム系の男の子達以外の人達は「自分が外で働きたいなら働くべき」という事で合意したんですが、イスラム系の男の子達は宗教的な価値観から「そもそもそんなのあり得ない」の一点張りで議論にすらならなくて。今まで当たり前だと思っていた前提が全く通じなかったんです。それが私にとっては衝撃的なことでした。でも彼らの考え方も、イスラム教の平和像に基づいて考えていくと納得できるんです。で、そんな中で思ったのは「(ジェンダー) 平等の基準って国や宗教によって違うんじゃないか」ということ。そしてみんな平和を望んでいるけれども、その中で宗教的・文化的価値観を超えてジェンダー平等を実現するって難しいんだと実感しました。



藤原：なるほど……世界中のジェンダー平等の達成もすぐ近くの未来だと思っていたのですが、いろいろな問題、壁、そして基準の違いによって難しいものになっているんですね！とても勉強になりました。ありがとうございました。恒例ですが、このインタビューの次の先生を推薦していただけますか？

萩原先生：私の独断と偏見で是非あの先生に……。きつと深く、おもしろい話が聞けますよ！

次号、乞うご期待！（記事編集：平山かな）

### 賢明人語

五万三〇〇〇トン。これはチョコレートには欠かせないカカオ豆の日本の輸入量だ。決して多いとは言えないことをまず知っておいて欲しい。▼私はある記事を読んだ。その記事は日本を代表するチョコレートメーカー、明治が二〇〇六年から南米を中心に六か国でカカオ農家を支援するという内容だ。読んだ記事ではマダガスカルでの支援が紹介されていた。▼当国は経済危機、政治不安などの影響で経済的に見れば世界最低水準にとどまっている。そこで想像して欲しい。あなたがカカオ農家だったら。▼突然知らない外国の人が勝手にカカオ豆栽培に口を出してきたら。どのような気持ちになるだろうか。私なら腹が立つし、邪魔しないで欲しいと思う。実際に明治の人たちがマダガスカルに行かれた時も農家の人たちの反応は冷たかったそう。でも、粘り強く支援を続け、その中で生まれたチョコレート、「明治ザ・チョコレート」はカカオにこだわったチョコレートとして人気を博した。▼この記事を読み、信頼関係の重要性を改めて感じた。学校生活に置き換えてみると、例えば宿題をいつも忘れる人は、もうすでに先生に信頼されていない。信頼を裏切り、崩すことは簡単だが、創り上げることは大変である。▼やはり人と接する上で信頼関係はとても大切だ。それは国と国との関係も同じだ。近年、保護主義や自国第一主義、分断という言葉がよく新聞に取り上げられている。信頼関係とは何なのか、もう一度冷静に考える必要があると感じる。普段の生活でも裏切らないように日々気をつけなければならない。▼マイナスから入った明治の人たちがマダガスカルのカカオ農家と信頼関係を構築していくことは困難であつただろうと容易に想像がつく。今回の場合は、商社に任せきりではなく、実際に自分たちが関わり、良質なカカオ豆を作り上げることによって人気商品の開発に成功した。▼あなたも、何かを行う時、人に任せきりにしていないだろうか。自分自身にも問いかける。何事も責任感を持って関わっていかうと。口に入れたチョコレートはいつもよりもちょっとカカオの味が深く感じた。(岡野晴菜)

17 パートナーシップで目標を達成しよう





# 海のごみ調査隊始動 そのごみでオブジェ作製 海洋汚染に関心を 播磨灘沖で底引き網漁に同行（姫路環境開発さんのご協力）

先日11月1日（日）に高2から3名、中1から2名の計5名が「海のごみ調査隊」に参加しました。この「海のごみ調査隊」は（株）姫路環境開発さんと燈台の光プロジェクトが共同で行う播磨灘の海の底にたまるごみを底引き網漁で回収し、そのごみを分析・調査して姫路の環境について考えること、また一人でも多くの人に海洋ごみに関心を持ってもらうためにそのごみでオブジェを作ることを目的としたプロジェクトです。 9:00 にウェーター（環境開発さんに用意していただきました。感謝）に着替え自己紹介をし、妻鹿漁港を出港しました。そこから約40分ほど波に揺られ1回目の網引き上げが始まりました。海洋ごみ問題について授業やマスメディアなどで何度も聞いていたので、どれほどひどいのか少し身構えていると、意外にも海洋ごみはほとんどなく、引き上げられたのは大量のヒトデの山。ヒトデの山からごみと魚を分け1回目は終了。またしばらく波に揺られ2回目の引き上げが始まりました。しかし

1回目と同じように真っ先に目についたのは大量のヒトデ。徐々に港へ戻りながら最後の引き上げ。漁港に近づいてきたからか、1回目・2回目と比べるとごみの量も増えてきました。しかし、やはり目につくのはヒトデ。予想していなかった結末に驚きながらも無事に帰航しました。港へ帰って来てからは漁で気になったことを船長さんへ質問しました。（以下質問）

**Q. 漁に出てみて、ヒトデが多いのにびっくりしたのですが、いつもヒトデが多いのですか？**

A. ヒトデがこんなに多いのは今年だけですね。今一つ原因はわかりませんが、今年が多いですね。

**Q. ごみがあまり網に入らなかったのですが、ごみの量はいつもこんなに少ないのですか？**

A. いつもは深いかごがいっぱいになるくらい集まります。だから決して海がきれいになったのではなく、ヒトデの下にごみがあり、ヒトデが先に網に入って、その下にあるごみが回収できないんだと思います。

**Q. プラスチックごみはいつも多いのですか？**

A. そうですね、プラスチックも入りますが、泥や他のごみと混じって重くなった木や廃タイヤが入ることが多いですね。おもしろいのが廃タイヤの中にはタコがいることもあるんですよ。

**Q. ごみは時期によって変化するのですか？**

A. ごみは時期によって変化することはないですが、使用する道具によって変わってきます。右上はそろばん漁の漁具。年中行えるんですが乱獲防止のため大量に取ることはできないんです。右下はまんが漁、今回の漁で使用した網です。これは10月末から4月の間だけ使用できるんです。



↑お世話になった姫路環境開発の社長さんとキャプテン（社員さんだと聞いてびっくり）



↑舌平目、カレイ、コウイカ、エビ、小さいカニ、タコなど。



最後に漁でとれた魚を頂きました。底引き網でとれるのはヒラメやカレイだけだと思っていたけれどエビやイカ・タコもとれて少し驚きました。頂いた魚は家で煮付けや刺身としておいしくいただきました。しかし、船長さんによると魚の量が昔と比べて減少しているとのことなのでこれも環境問題や海洋ごみのせいなのかと疑問に思いました。

今後ヒトデが多かった理由や海洋ごみに木が多かった理由、魚の量など、今回の漁で出た疑問についてメンバーみんなで考え、研究していこうと思います。そしてこのような貴重な経験をさせていただいた姫路環境開発さんに感謝です。ありがとうございました。（H2A 野口結寿）  
←今回の漁で回収したごみです。 空き缶3、ビニールごみ7、ゴムごみ1、プラごみ3、タイル（石）1、木（竹15・木82・松ぼっくり1）謎（石？金属？）4 中庭に展示中。

## 映画班より おすすめ作品「地球交響曲」

映画班より映画の紹介です。上映を検討しましたが、今回は見送りになったものです……「地球交響曲（ガイアシンフォニー）」です。伊賀先生からご紹介頂きました。ガイアシンフォニーはイギリスの生物物理学者ジェームズ・ラブロック博士の唱えるガイア理論（「地球はそれ自体が一つの生命体である」という考え）に共鳴した龍村仁監督によって制作されたドキュメンタリー映画です。今までに1992年公開の第1番から2015年公開の第8番までが作られ、延べ240万人に上る観客を動員し、超ロングランムービーとなっています。この映画シリーズは美しい映像と音楽、珠玉のことばによって織りなされ、環境問題や人間の精神性に深い関心を寄せる人たちの心をつかんできました。地球という一つの生命体に生きる一生物として自分を見つめ直し、すべての命あるものへ思いを寄せることができる、とても素晴らしい映画シリーズです。自主上映会中心の映画のようですが、機会があれば是非ご覧下さい！！なお、第1番、2番、4番については伊賀先生がDVDを貸し出し可能ということですので、視聴希望の人は伊賀先生まで申し出て下さい。よろしくお願いします。（映画班 H1A池澤、黒田）

## 調べ学習班 紙の切れ端、チョーク有効利用を

Be Leaders 調べ学習班が行っているECO&COOL プロジェクト切れ端・白チョーク集め隊！お試し期間を経て、本格的に動き始めました。捨ててしまう紙の切れ端やプリントは再生紙へ、短くなった白チョークは運動場のライン引きの粉や新しいチョークに生まれ変わらせる予定だそうです。代表のH1Aの榮陽菜さんに集まり具合を聞きました。もうすでにたくさん集まっているそうですが、「チョークや白線など新しく生まれ変わらせるにはもっともっと集めないといけません。また再生紙もっと無駄をなくしたいですね」と榮さん。持続可能な賢明を目指してこれからもご協力よろしくお願いします。（取材 菅野柚希）

